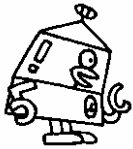


水中の小さな生き物は、何を食べているの



小さな生き物は2種類に分かれ、自分で^{えいようぶん}栄養分をつくる植物のなかまと、それをえさにしている動物のなかまがいるよ。

水中の小さな生き物は、2つのグループに分けられる

池や小川や海などの水中には、いろいろな生き物がたくさんいます。ここでいう小さな生き物とは、けんび鏡でやっと見ることができるプランクトンとよばれる生き物のなかまのことをさしているものとします。

池の底にすんでいた落ち葉や水草をとってきて、少量の水ですすぎあらいし、その水をスポイトでとって、けんび鏡で観察してみましょう。

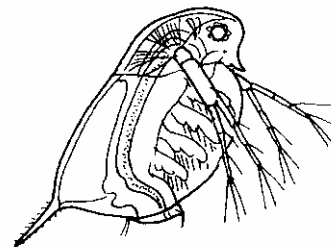
30倍以上にして見ると、動かない緑色をしたさまざまな形のプランクトン（^{しょくぶつせい}植物性プランクトン）と、よく動き、色は緑色をしていないプランクトン（動物性プランクトン）の2つのグループが見られることに、気がつきます。

植物性プランクトンは、動物性プランクトンのえさになる

緑色をしたプランクトンは、地上の緑色の葉をもつ植物とよくにています。植物は、緑の葉の中で、日光と水と^{にさんかたんそ}二酸化炭素から^{さんそ}栄養（デンプン）と酸素をつくりまします。だから、わずかな^{ひりょう}肥料だけあれば、何もあたえなくても大きく成長し、いもや^{くだもの}果物や米などを実らせまします。同じように植物性プランクトンは、日光さえ当たれば、自分で栄養分をつくってふえていきます。

動物性プランクトンは、この植物性プランクトンをえさにしたり、同じ動物性プランクトンの大型のものが小さいものをとらえてえさにしたりしています。

ちょうど、草食動物が植物を食べ、肉食動物が草食動物を食べるのと同じです。



すばやく動き回ってえさをとらえる

動物性プランクトンのミジンコ